

一般社団法人 日本助産学会ニュースレター

巻頭言

「ICM プラハ大会に向けた学術委員会の活動－演題受理の方法と動向－」

ICM プラハ大会学術委員

東京医療保健大学東が丘看護学部大学院 高度実践助産コース 大石 時子

ICM プラハ大会の意義

第 30 回 ICM 大会がチェコのプラハで 2014 年 6 月 1 日から開催される。3 年前、南アフリカ大会で採択された ICM の主要な活動方針、つまり教育、規則、職能団体の強化について採択された文書(Essential competencies for basic midwifery practice, Global standards for midwifery education, Global standards for midwifery regulation, Member Association Capacity Assessment Tool)がどのように世界で実行され、どのような課題が見えてきたのかを評価する大会である。

ICM には 3 つの常設委員会、Education Standing Committee (教育)、Research Standing Committee (研究)、Regulation Standing Committee (規則)があり、各々にプラハ大会でワークショップや委員会開催を予定している。

プラハ大会の動向

プラハ大会は、今までにない多数の参加者が見込まれている。大会半年前に 2000 人近くが既に登録した大会は例を見ないといわれている。グラスゴー大会は約 3500 人、ダーバンは 3200 人ほどの参加者があったが、プラハはこれらの大会を上回る参加者があると見込まれている。

演題も 1360 件の提出があり、ポスターも口演も「研究」領域の演題が最も多く、続いて「実践」「教育」の領域となっており、世界的に助産師の研究への関心が高まり参加者も多くなっていることが感じられる。

また開催地プラハが存在する東欧では、自宅

出産を介助した助産師に対し刑事罰が科せられる例が発生したりして、助産師への抑圧が懸念されている。下記に説明する学術委員会でも東欧の状況を意識し、助産と女性の健康の権利を一日目のテーマに採りあげあたり、「人権」のシンポジウムを新たに企画したりして、東欧の助産師をエンパワーしようとしている。(日々のテーマは ICM ホームページをご覧ください)

Scientific Professional Programme Committee (学術委員会) の役割

大会の学術部門を扱うのは Scientific Professional Programme Committee (学術委員会、以下 SPPC) である。SPPC が ICM 大会のために世界的に組織されたのは今プラハ大会が初めてである。今までは開催本国が ICM 本部と共に学術部門も取り扱っていた。

SPPC の役割は、大会の学術プログラムの部分を組織すること、つまり 1. 大会テーマに沿って、日々のテーマを決め、基調講演者を選出する、2. 演題受付のための枠組みや手続きを決める、3. 演題受理のため、査読基準を決め、査読体制を準備する、4. 受理された演題を整理し、分科会や座長の配分を決める、等である。

SPPC の委員は大会開催国のほかに、世界の地域性が不平等にならないように、ICM の 4 地域(アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパ)からも各 1 名が委員になるように構成されている。また、上記 3 つの常設委員会からも各 1 名が委員となり、議長 2 名を含めて全 12 名で構成されている。議長は今大会ではニュージーランドの Karen Guilliland 氏と英国の Margaret

McGuire 氏の 2 人である。

世界規模での委員会を何度も開くわけにはいかなないので、電話会議もあるが、2 人の議長と ICM 執行部のリーダーシップが大きい。特に、毎日の基調講演者選出は米国前国務長官ヒラリー・クリントン氏の名前も挙がるほど、“大物”を選出しなければならない、世界の助産師にアピールすることのできる講演者を選ぶことは委員のレベルでは難しさを感じた。また“大物”を得るために助産師の講演者が少なくなならないよう、助産師の世界大会であることを明示する人選であることも必要であった。

演題はどのように査読されるか

プラハ大会へは 1300 以上の演題申し込みがあったため 1 つの演題を 2 人で査読するため、世界の査読者データベースから 180 人程の査読者が 1 人 10 題程の演題を査読した。査読基準がスケールで点数化され、2 人の査読者がそれにそって採点する。「研究」部門の査読は Research standing committee とそこが認めた査読者でなければならない。受理の判定点数がどの程度であったのかは、明らかにされていないが、約半数弱が受理されており、今までの大会と同様の傾向である。

結果的にシンポジウムとワークショップを含めて 225 のセッションを配分するという膨大な作業となった。やはり助産実践に関する研究が圧倒的に多く、4 日間で 4 つのテーマにうまく配分することはできなかった。SPPC 委員の間では、テーマの決め方に対する反省の声があがっている。

ポスターと口演は同じ基準で査読される。ポスターも口演も受理率に大きな差はない。提出

されたポスターと口演の割合は workshop と symposium を除けば約 3 : 1 であり、受理されたポスターと口演の割合も約 3 : 1 である。

ポスター世界第 1 国である日本の課題

日本は英国に続いて世界第 2 位の演題提出国 (185 題) であるが (第 3 位の Australia とは 1 題差)、受理された演題数では第 3 位となった。日本に特徴的なのは、受理された 82 題のうち 72 題がポスターであり、ポスターの数は世界で日本が断突のトップである。ポスターと口演の受理率に大きな差はないことを考えると、もともと口演演題の提出が少なかったと考えられる。

これは英語での口演に対する苦手意識が反映されているのだろうか。他国においても、スペイン語とフランス語は ICM の公式用語として口演に使用できるにもかかわらず、非英語圏では、ポスターの多い国がある。たぶん、抄録を英語でしか提出できないため、苦手意識があるか、提出しても受理されにくい、という背景があるのではないかと推察される。SPPC 委員に公開された範囲で、国別の受理率を計算してみると、やはり日本を含め非英語圏の方が受理率が低い。研究の質というより言語の壁に阻まれている可能性がある。

SPPC も非英語圏の研究者・助産師に言語による不利益があり受理に影響しているのではないかと意識してはいるが、実際の改善は今後の課題である。

日本は、英語圏である米国を抜いて、世界第 3 位の受理された演題数があり、ポスターでは世界第 1 位であることを考えると、日本の助産師や研究者は、もっと自信をもって、口演にチャレンジしてもよいのではないだろうか？

第 28 回日本助産学会学術集会のご案内 (第 2 報)

メインテーマ: 安全・安心・継続性 ~女性と家族の未来を長崎から発信する~

第 28 回日本助産学会学術集会会長 江藤 宏美

このたび、第 28 回日本助産学会学術集会を 2014 (平成 26) 年 3 月 22 日 (土)・23 日 (日) の 2 日間、長崎ブリックホールを会場にして開催いたします。多くのみなさまのご支援・ご協力のもとに、長崎の地で開催できますことを心より感謝申し上げます。現在、みなさまの交流・情報交換の場、新しい学び・発見の場になりま

すよう、準備を進めているところです。

現在、出産の環境、助産師をとりまく状況は必ずしも楽観視できないところにきていると思います。助産師の偏在、教育力や実践力の低下、産科医の減少、お産の減少と多様化など、引き続き助産師という専門職に課せられた課題は膨らんでいるように思います。今の状況に鑑み、

我々は目指す方向を決め、変革していく分岐点に立っているのではないのでしょうか。

本学術集会では、日々営まれる日常の生活や生命の安全を脅かすような状況に対して、メインテーマとして、安全 (Safe)・安心 (Secure) とは何か、そして、それが継続する (Sustainability) ようにするにはどうすればいいかを考えていこうと思います。特別講演、教育講演、シンポジウム、自由集会等々を通し

て、談論風発で活発なやり取りができ、助産師の知が結集できればと考えています。

3月には歴史の街、長崎へ足をお運びいただければうれしいです。多くのみなさまのご参加を、企画委員・実行委員一同、心よりお待ちしております。

学会ホームページ

<http://www.c-linkage.co.jp/jam2014/index.html>

平成25年度一般社団法人日本助産学会 学会賞表彰者受賞者

表彰関連委員会 森 明子

平成25年度 学会賞受賞者は下記の3名です。

功労賞 加藤 尚美

学術賞 長田 知恵子

奨励賞 福島 恭子

一般社団法人日本助産学会 平成25年度定時社員総会開催のお知らせ

庶務担当理事 片岡 弥恵子

代議員各位

一般社団法人日本助産学会の平成25年度定時社員総会を下記のように開催いたします。

多事多端の時期ではございますが、ご出席のため万障お繰り合わせくださいますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本助産学会
理事長 江藤 宏美

記

1. 日 時：平成26年3月21日（金）
14:00～15:30
2. 会 場：長崎ブリックホール 3F 会議室
1-3
3. 議 題：
 - 1) 平成25年度活動報告・収支決算報告審議
 - 2) 平成26年度事業計画案・収支予算案審議
 - 3) 第30回学術集会会長の選出

一般社団法人日本助産学会 第28回学会総会開催のお知らせ

庶務担当理事 片岡 弥恵子

会員各位

一般社団法人日本助産学会の第28回学会総会を、下記のように開催いたします。

万障お繰り合わせの上ご出席くださいますよう、ご案内いたします。

一般社団法人日本助産学会
理事長 江藤 宏美

記

1. 日 時：平成26年3月22日（土）
11:20～12:20
2. 会 場：長崎ブリックホール 2F 大ホール
3. 議 題：
 - 1) 平成25年度活動報告・収支決算報告
 - 2) 平成26年度事業計画案・収支予算案報告
 - 3) 第30回学術集会会長について
 - 4) 表彰式

総会要綱は、当日会場入り口にて受け取り、
学会総会に臨んでください。

ICM募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

本学会は、ICM 支援のための募金を常時受付けております。

今回、井関敦子様よりお振込みいただきました。ご協力ありがとうございました。引き続き、皆様方の暖かいご支援とご協力をお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における
助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

事務局からのお知らせ

次年度平成26年度会費(10,000円)納入について

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお祈いします。

また、平成25年度までの会費納入がまだお済でない方は平成26年度分と合わせて、早急にお振込み下さい。

- ・郵便振込：00120-2-763540 加入者名：一般社団法人日本助産学会
通信欄に会員番号と納入年度を明記
- ・銀行振込：ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(セロイチユウ)店(019)(当座) 0763540 一般社団法人日本助産学会(シヤ)ニホジヨウカンガクカイ 氏名と会員番号を通知

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先にE-mailかFAXでご連絡ください。学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールかFAXでご請求ください。会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更手続きに関してはオンライン会員情報管理システムか書面で、そのつど速やかにお手続きしてください。

- ・オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)ご利用の場合
オンライン会員情報管理システム：<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM> からID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問合せ下さい。
- ・オンライン会員情報管理システムがご利用になれない場合
変更届の書式は問いませんが必ず書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記してお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。学会誌等送付にはクロネコメール便を利用しますので、郵便局へ転送届けを出していても届かない場合があります。変更届は必ずご提出ください。また、ご自宅ポストの表示がない場合も届きませんので、ポスト表示も合わせてよろしくお願い申し上げます。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面（E-mail・FAX・はがき等）でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくことになります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。ただし、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～25巻は2,500円、26巻は3,500円(各1部)で、送料は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。

《連絡先》 一般社団法人日本助産学会事務局
〒170-0004
東京都豊島区北大塚 3-21-10 アーバン大塚 3F
株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内
TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364
E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp
ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。